慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1961
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.54, No.4 (1961. 4)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19610401--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

三田學會雜誌

1961年　4月号

論　説

輸出経済の形成……矢内原　勝　1
——ビルマの米輸出貿易——
十九世紀イギリス労働運動とマルクス主義 (二)……飯田　鼎　19
——一八四八年の革命以後におけるマルクスおよびエンゲルスとイギリス労働者階級——
有業率変動の分析……尾崎　巌　35
——勤労者家計の労働供給構造の解明——

資　料

独占度測定の問題 I……原　豊　60
現代資本主義と混合経済の論理……丸尾直美　70

書　評

岸本英太郎・渡辺春男・小山弘健著『片山　潜』
隅谷三喜男著『片山　潜——近代日本の思想家』……飯田　鼎　81
マッセ『亡命貴族の財産をめぐって』……渡辺國廣　85
田中惣五郎著『日本ファシズム史』……白井　厚　89

新刊紹介

54巻 4 号

昭和25年10月24日　第三種郵便物認可
昭和26年2月13日　国鉄特別扱承認雑誌第一、九〇三号
昭和36年4月1日　発行（毎月1日発行）

三田学会雜誌　昭和三十六年三月号　定価　金九〇円（八送円料）

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 54, No. 3　March, 1961

CONTENTS

Fragments sur Blanqui ……*S. Hirai* 1
Critical Observations on "People's Vocation"
——The Issue in the Modern History of Japanese Thought——……*A. Tanaka* 20
On „Die ausländische Saisonarbeiter in der Landwirtschaft der östlichen und mitteren Gebiete des Deutschen Reiches, 1890—1914, 1959" by Johannes Nichtweiss……*K. Iida* 32
On the Dynamic Properties of the Macroeconomic Model……*S. Nishikawa* 45
Book Reviews
Die Volksaufstände in Frankreich vor der Fronde 1623—1648, by B. F. Porschnew……*K. Watanabe* 57
Werner Stark; The Sociology of Knowledge, translated by Ch. Sugiyama……*K. Iida* 62
The Ideal Foundations of Economic Thought, by W. Stark……*A. Shirai* 66
On the Two Articles Regarding Saint-Simons Philosophy of History……*H. Noji* 72
Some Literatures on the Problem of Nationalisation……*N. Maruo* 77

Published for
KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI
(The Keio Economic Society)
Editorial communications to be sent to the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai, Keio University
Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.
Price 90 yen

輸出経済の形成

——ビルマの米輸出貿易——

矢内原　勝

1

ここで輸出経済というのは、一種類でなくてもよいが、ごくわずかの種類の輸出用の第一次生産物の生産がその国の経済の大部分、とくにこのような国ではまだ自給自足的な経済が広汎に存在しているので、その国の交換経済部門の主要な活動を形成しているような経済構造を意味する。具体的には、このような輸出経済をもつ国は、第二次大戦前はほとんどが植民地であった国であり、通常熱帯地方に位置している。これらの諸国は一九世紀世界経済のなかで、植民本国としてのヨーロッパ列強に対して熱帯植民地であり、その間の貿易はいわゆる植民地貿易であった。最近の学界では、今日の世界経済の新展開と対比して一九世紀の貿易にも分析の光があてられている。ヌルクセは、デニス・ロバートソンの、一九世紀には「貿易は成長」の動力であった、という句を借りて、貿易による経済成長の動態的波及を二〇世紀の世界経済と対比して一九世紀の特徴とした[1]。「新国（new countries）」は本国工業の要求する第一次生産物を開発する。そしてそのために本国は資本を新国に提供し、これにより新国の本国に対する生産物の供給は増加し、本国、新国ともに成長していったのである。しかしこのような新国とは、具体的にはカナダ、アルゼンチン、ウルガイ、南アフリカ、オーストラリア、ニュージーランドが例に挙げられているように、植民政策でいう「居住植民地」である。居住植民地は白人の居住に適する地方に属し、実際に白人が移住、植民した地域である。ヌルクセも新国をヒルゲルト（Folke Hilgerdt）の用いた「最近定着した地域（regions of recent settlement）」ということばでも呼んでいる[2]。小島清教授が、一九世紀経済では工業国対第一次生産国という異質国間分業、貿易を通ずる異質国間結合が中核をなした[3]、と論じられているばあいの第一次生産国も、おそらくヌルクセのいう新国であろう。ここで筆者のとりあげている輸出経済は、このような新国ではなくて、ヌルクセ教授の「エキゾチック諸国（exotic countries）

新刊紹介

グリーンロー編『フランス革命の経済的原因』……渡辺國廣　94

日高六郎著『現代イデオロギー』……白井　厚　94

A・A・バーリ著
加藤寛・関口操・丸尾直美共訳『財産なき支配』……中村瑞穂　95